

家庭教育 手工應用 玩具の作り方

藤 五代策譯

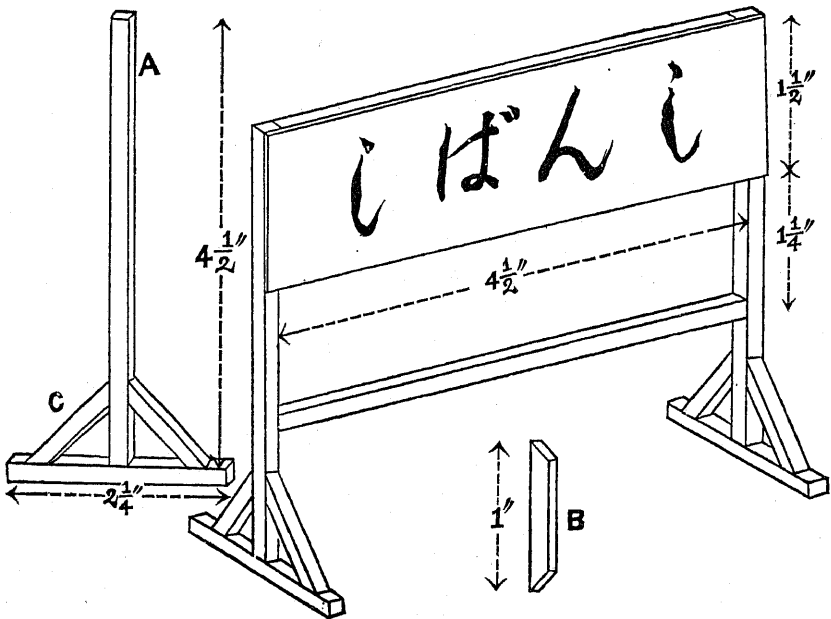
第二十九圖 看板(停車場の)

次の如き燐寸棒を作る。

長さ $2\frac{1}{2}$ のを五本。 $2\frac{1}{2}$ のを二本。 $1\frac{1}{2}$ のを四本。第一の兩側の柱から先きに作らねばならぬ。即ちA圖に示せる寸法のを二本取りて、之を附着する。次に $1\frac{1}{2}$ のを四本作り、其兩端をBの如く削りて、Cの位置に嵌めるのであるが、餘程うまく削らないとき、ちんと嵌らない。斯くして兩側の柱を作り、又臺木の下から柱に通して留針を叩き込んでも宜しい。

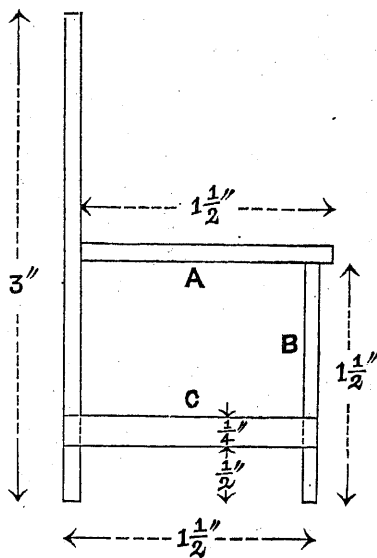
それが出来たら今度は三本の横木を附ける、即ち上の二本は $1\frac{1}{2}$ を隔て、之より $1\frac{1}{2}$ を隔て、下なる一本を付ける。

扨て次ぎは平板を長さ $4\frac{1}{2}$ 幅 $1\frac{1}{4}$ に裁ちて、其裏面の四縁に膠を付けて圖の如く貼り付け、表面に墨又は鉛筆にて驛の名前を書くのである。又關節は一々留針で止める事。



第三十圖 ベンチ

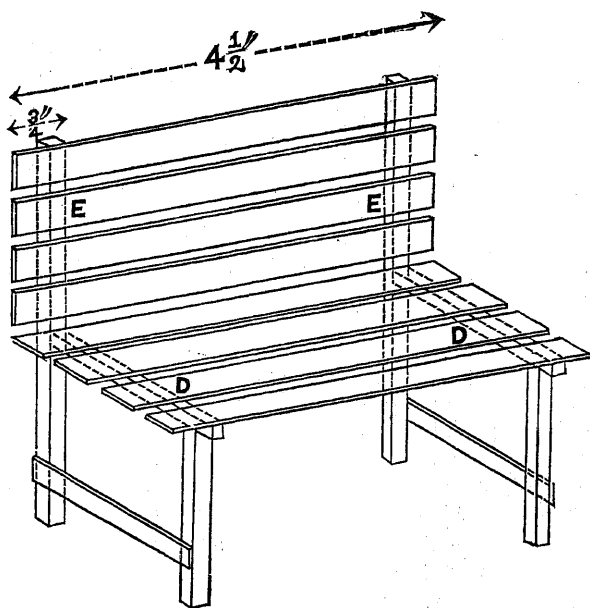
二側の脚になる部分は上部の側面圖によりて作る。先づ隣寸棒のものを二本切りて後脚となし



1 1/2 寸のを四本作りて前脚及び支へ木として A B の如く組み立てる。そこで前、後脚を固定させる爲めに平板、を長さ 1 1/2 幅に裁ちたるものを二板作

りて C の如く兩脚に附着する。

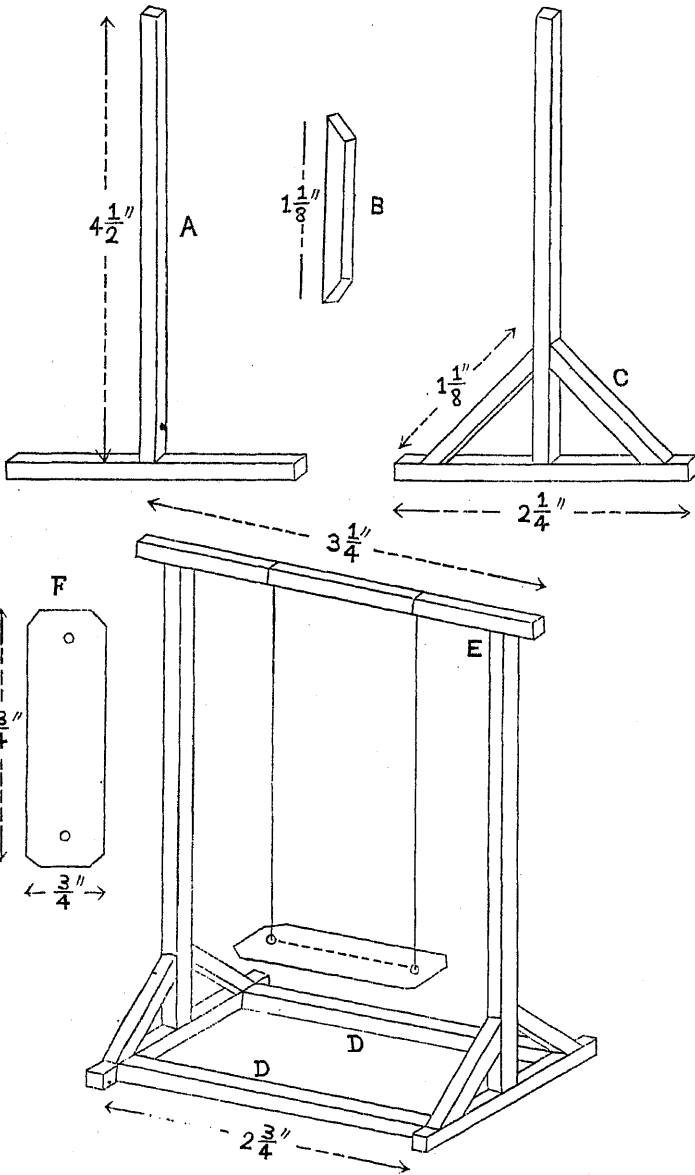
次に平板の長さ 1 1/2 幅なるを八板裁ちて、其の中の四板を支へ木 A の上りに貼付ける、即ち D の如



く同じ間隔で付けるのである、其の時注意せねばならぬのは支へ木が腰掛け板の端からだけ隔つて居なければならぬ事である。それから残りの四

板を前と同じ方法でEに附着する。

第三十一圖 ぶらんこ(其の一)



隣寸棒長 $2\frac{1}{4}''$ のを二本と $1\frac{1}{8}''$ のを二本切りてAの

つた譯である。次に $1\frac{1}{8}''$ の隣寸棒を二本造りてDの

如く附着し、別にBなる $1\frac{1}{8}''$ のを四本造り其の兩端を削りてCに嵌める。是で兩側の柱だけは出來上

如く兩側の臺に取付け、それからその一本造りてEの位置に固着する。今度は平板をFの寸法によりて裁ち其の四隅を落して腰掛けと成し、兩端から隔て、孔を穿ち、此の孔に糸を通して、糸の兩端は上部の横木に結び付けるのである。

腰掛けが左右に之つたりなんすかると都合が悪  
いから裏面に膠を少し付けて糸が走らない様にす  
るが宜しい。無論關節には全部留針を打ち込むが  
よろしい。

## 汽車の中

### ○空氣枕

六つ許りの兄、お父さんの空氣枕を頼りにふくらませて居たが、  
やがてそれを枕にころりと寝た。子供の寝いるのも早い  
のぬけるのも早い。栓のしてない空氣枕はすぐべたんこになつた。  
お父さんは笑つて見て居たが、腰掛にひざまづいて、枕の  
栓の處に口をあてた。枕がだん／＼ふくれて来る。子供の頭が  
だん／＼あがつて来る。お父さんは随分くたびれて栓をねぢつた。  
子供はすやくと眠て居る。——丁度、なんにも白河の驛の  
附近のこと。

### ○トンネル遊び

『アラ日が暮れた』

『あゝ夜があげた』

可愛らしいおさげの姉妹と、小さい白洋服の弟と、汽車がトンネル  
を出入りする毎に聲をあはせてはばや／＼やいで居る。成人客  
には鬱陶しい箱根越えも斯うして面白い遊びにまぎれて、いつ  
の間にか過ぎてしまつた。

弟はつまらなそうな顔で

『もう夜にならないの？』

### △御注意

會員諸君にて御轉任御轉居等、雜誌送りさきに變更を生ぜられた時は、必ず至急の御一報を願ひます。不着延着等が屢々起つて困りますから念の爲め御注意申上げて置きます。尙ほ又、雜誌不着等のことがありました節は、其の月に直に御一報下さる様願ひます。